

明和メディカルセンタービル開業

新時代へ、まず一歩。



明和町や民間企業が出資したまちづくり会社「邑楽館林まちづくり」による東武伊勢崎線川俣駅周辺の開発事業で1日、駅東口に事業の中核的な医療複合施設「明和メディカルセンタービル」がオープンする。二つの医療機関が開業し、町保健センターも移転。診療と健診を連動させて住民の健康を支える体制が整い、新たな時代への第一歩を踏み出す。



「質の高いサービス提供」

明和町長 富塚基輔

医療複合施設「明和メディカルセンタービル」は、国の立地適正化コンパクトシティ構想の国庫補助金を活用し、明和町とまちづくり会社「邑楽館林まちづくり」が共同で開発した。河本工業の4者の民間資金活用による社会資本整備(DF)事業で建設されました。PFIにより事業コストを削減、町の財政に



配慮しながら、質の高いサービスを提供することが可能となります。今回の事業では、川俣駅駅舎の階段口から直接アクセスできるペDESTリアンデッキを設置。ビルには二つの医療機関を開業するとともに、町保健センターが移転します。病院と連携して、皆さまが受診したい時に健康診断を受けられる体制を整えるほか、食生活指導や食育指導、骨粗しょう症予防講座などもプログラム化する予定です。また、建物の一部を3階建てとし、町土地開発公社事務所を兼ねた避難施設を確保しました。

体制を整えるほか、食生活指導や食育指導、骨粗しょう症予防講座などもプログラム化する予定です。また、建物の一部を3階建てとし、町土地開発公社事務所を兼ねた避難施設を確保しました。

同駅周辺開発事業では、移住促進や子育て環境の充実、地域経済の活性化などを目標として、駅東口に医療複合施設「明和メディカルセンタービル」を建設。施設と駅をペDESTリアンデッキでつなぐ。ホテルなどの付加価値を高めるため、温泉掘削に取り組み、毎分約130リットルの湧出を確認。弱アルカリ性のナトリウム塩化物温泉で保温効果や美肌効果が期待できるという。今後建設されるホテル内の温泉施設などで活用する方針。



西棟3階の会議室。災害時には避難所として活用。約500人を収容できる



西棟2階のカフェ。病院利用者だけでなく、誰でも気軽に利用できる



東棟1階に開業した「だいち薬局」。町保健センターに隣接している



町保健センターの室内。広々としていて、子ども連れでも安心



明るいつもりの町保健センターの受付

ビルは鉄骨3階建ての西棟と、隣接する東棟で、延べ床面積は約5400平方メートル。海宝病院(館林市堀土町)が、現在の病床数や診療科などを維持して移転。新規開業で周産期医療力を入れる小児科専門の明和赤やんこも、クリニックや調剤薬局も入居幅広い年代の医療ニーズの受け皿となる。

町保健センターは老朽化が著しい上、敷地面積が狭く、成人向け健診を院内で実施せざるを得なかったが、センタービルへの移転でこうした状況が改善される。

利根川と谷田川に挟まれた明和町は、記録的な大雨や台風による浸水が広範囲に及ぶと想定されている。駅周辺地域に町人口の約半分が集中しており、新たな避難所を要望する声が高まっている。こうした要望に応えて、防災拠点の役割も持たせた西棟3階に会議室などとして使えるスペースを設け、水害発生時には住民や駅利用者の避難所として活用。新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で、500人以上を収容できる見込み。施設に医療機関があるため、避難者が体調を崩した場合の応急的な治療も可能だ。

同駅周辺開発事業では、移住促進や子育て環境の充実、地域経済の活性化などを目標として、駅東口に医療複合施設「明和メディカルセンタービル」を建設。施設と駅をペDESTリアンデッキでつなぐ。ホテルなどの付加価値を高めるため、温泉掘削に取り組み、毎分約130リットルの湧出を確認。弱アルカリ性のナトリウム塩化物温泉で保温効果や美肌効果が期待できるという。今後建設されるホテル内の温泉施設などで活用する方針。

町保健センターは老朽化が著しい上、敷地面積が狭く、成人向け健診を院内で実施せざるを得なかったが、センタービルへの移転でこうした状況が改善される。

町保健センターは老朽化が著しい上、敷地面積が狭く、成人向け健診を院内で実施せざるを得なかったが、センタービルへの移転でこうした状況が改善される。

地域の力 応援キャンペーン「ぐんま愛2021」協賛社

							地域の力 応援キャンペーン「ぐんま愛2021」 「ぐんま愛」は、地域の課題をともに考え、地域の魅力を発掘するお手伝いをするキャンペーンです。 上毛新聞社は、県内自治体と協賛企業・団体の協力を得て2016年から「ぐんま愛」を展開しています。		

